



# 国際化の最前線から



## ベジタリアンは野菜サラダを食べる人だと思いませんか？

フードダイバーシティ株式会社 代表取締役 守護 彰浩

### 高まる食への期待

日本への旅行、および日本での生活において共に避けられないのは「食」であり、また楽しみになるのも「食」です。観光庁が発表している「訪日外国人の消費動向(2018年)」においても、日本での楽しみは「日本食を食べること」がトップの70.5%となり、日本食は海外から多くの期待が寄せられていることが分かります。

### 世界で増えるベジタリアン・ヴィーガン

その中でも昨今ベジタリアン・ヴィーガンと呼ばれる、お肉やお魚を食べないライフスタイルを選ぶ方々が世界中で増えています。「ベジタリアン」は野菜中心の食事をする方から、厳格に制限する方まで幅広く含み、「ヴィーガン」はお肉やお魚に加えて、乳、卵、はちみつなどの動物由来の食品も含めて食べない人のことを指します。ベジタリアン・ヴィーガンになる理由は人それぞれですが、主に下記の4つとなります。

(1)環境問題 (2)動物愛護 (3)宗教 (4)健康志向

特に最近では、家畜の排出する二酸化炭素問題が世界単位で議論となっていることもあり、「未来に向けて持続可能(サステナブル)な社会を作ろう」ということで(1)を理由に実践する人が増えています。観光庁の最新の発表でも世界のベジタリアン人口は6.3億人にも上ります。

### 日本では“誤解”が多い

しかし日本ではこのベジタリアンについて誤解が多くあります。実は日本の飲食店の多くがベジタリアンのことを「野菜サラダ」を食べる人のことだと思っています。ベジタリアンの方は野菜だけでなく、もちろんお米や



海外のベジタリアンメニュー

小麦などの穀物も食べることはできます。実際2019年に、世界13万店舗中世界1位のベジタリアンレストランに輝いた東京・自由が丘の菜道にはラーメンやカツ丼などの「日本食×ベジタリアンアレンジ」を求めて世界中からお客様が来店しています。多様化する食に対応しながら、先入観から来る誤解を無くし、お客様の食べたいものを提供していくことも進めていかなければ、高まる食の期待に応えることはできないと考えております。

### プロフィール

フードダイバーシティ(株)  
代表取締役 守護 彰浩(しゅご あきひろ)  
流通経済大学 非常勤講師  
千葉大学卒。世界一周後、2007年楽天(株)に入社し、さまざまな新規サービスを立ち上げる。2014年に「HALAL MEDIA JAPAN」、2018年に中国語でのベジタリアン情報サイト「日本素食餐廳攻略」をサービスイン。さらに2020年、世界最大のベジタリアンアプリであるHappyCowと業務提携。さまざまな食の禁忌に対応するための講演を全国自治体・行政と連携しながら展開中。